



# しらね

## 2月号

### 学校のお母さん??

副校長 原田 眞由美

早いものでもう2月。今年度も終わりに近づいてきました。子どもたちもこの一年間を振り返り、自分なりに成長した姿を感じているところだと思います。

先日、4年生が国語の学習で行っている「仕事リーフレットを作ろう」～写真と文章で構成した仕事を伝えるリーフレット～の準備のため取材に来ました。副校長先生の仕事について教えてくださいということでした。思いがけず、私も自分の仕事について見つめなおし、振り返る機会を得ることになりました。

副校長の仕事・・・子どもたちの予想はいろいろありました。

- 電話に出ること（そうそう、確かにそうかも）
- お茶を入れること（そうそう、確かにそれもそう）
- 校長先生を助けている（助けるなんて、そんな大それたこと。とんでもない）
- みんなの安全を守ってる（いいこと言うなあ）
- 地域の人や保護者と仲良し（そうそう、今年はたくさんの人と出会った）
- 陰でみんなのことを支えてくれている（うれしい。そんなふうに思ってくれていたんだ・・・）
- なんで先生になったの？（初心を思い出させてくれる質問だ）

などなど、一生懸命インタビューをしてくれました。

さて、何て答えようと思いつつも、「こんな副校長でありたいな。」といつも思っていることを話すことにしました。

みんな（子ども・教職員・保護者・地域の方々）が白根小学校に笑顔で来られるような学校にしたい。これが私の一番の願いです。そのために、副校長としていつも笑顔でかかわることができるようにしよう。忙しくない仕事はありません。大変でない仕事はありません。でも、そう思われないうちにいつも楽しく仕事をしていくように心がけています。心が折れそうになるとき、子どもたちの声や笑顔が、私に力を与えてくれます。教職員が私に声をかけてくれます。だから、いつも元気に笑顔で過ごすことができるのだと思います。

子どもたちが予想したことは、本当にぜんぶ私にとって大切な仕事です。一つでも欠けたら安心できる白根小にはなりません。

そしてもう一つの質問。なんで先生になったの・・・？「子どもが好きだからだよ。」と答えたら、「やっぱりーそう思った！」ととびきりの笑顔を見せてくれた、あなたたちのその笑顔が好きなんだなあ。だって、私は学校のお母さんなんだから・・・。

（本当はお姉さんと言いたいのですが）

「自分を癒すことは、人を癒すことから生まれる。」と言った人がいます。なんでも巡り巡って自分に戻ってくるんだなと受け止めました。学校のお母さんである私の目標が、また一つ増えました。人を癒すことができる副校長をめざして。